



長谷川 嘉昭 先生

略歴

- 1988年 日本大学歯学部卒業
- 1993年 東京都葛飾区にて開業
- 1998年 日本歯周病学会専門医
- 2007年 日本臨床歯周病学会指導医
- 2008年 東京都中央区にて移転開業
- 2009年 日本歯周病学会評議員
- 2014年 日本臨床歯周病学会歯周インプラント指導医
東京医科歯科大学非常勤講師

再生療法における安全性を再考する

東京都開業
長谷川 嘉昭

歯周組織再生療法に限らず治療で一番大切なことは、有効性ではなく安全性である。安全性なくして有効性の追求など言語道断である。安心して安全な薬剤を安定して使い続けられることが、患者への信頼獲得と医療従事者の責務と考えている。エムドゲインの実績（安全性および有効性）は、私自身も過去20数年にわたる臨床経過からも副作用によるトラブルや、有効性に問題を抱えたことは一度もない。

むしろ効果が予測を下回る場合は、自分の術式に何が問題であったのかを検証し、再度施術した経験も少ない。疾患の原因を可能な限り考え尽くすことが、再生療法を成功させる勘どころとして肝に銘じている。今回はそれらの経験をもとに、エムドゲインの有効性を最大限に引き出す臨床術式について紹介する。と同時に今、皆さんが一番知りたいことは・・・「リグロスの方がエムドゲインより効くのか?」「リグロスは安全なのか?」ではないでしょうか。開発者の「育薬」の精神を尊重するのであれば、一学会員として事実を公表し、皆さんにその結果に対する判断を仰ぎたい。両薬剤に関心を持つ一臨床家として、歯周組織再生療法だけにとどまらず、インプラント治療におけるGBR症例や同一患者の同一部位におけるリグロスとエムドゲインの比較など複数の症例の術後経過からの「安全性」と「有効性」の両面についても私見を述べたい。

当然、本講演において確立したエビデンスはなく、自身のエクスペリエンスであるところを予めお許し願いたい。